



発行所 磐城日日新聞社
福島県小名浜町湊51
電話代表387番
編集長 藤田喜次男
発行人 藤田喜次男

記者 若干名
見習記者 若干名
業務社員 若干名
磐城日日新聞社人事課

合併と市制施行へ強行軍

縣下の対象一齊に動く

既報に白石地方議長の歸郷に於て確認された町村合併に伴う市制施行制限緩和の政府方針に基き、縣下の対象一齊に動く。白石地方議長の説明によると、基本方針としては地方自治法改正案成立の見通しに基き、人口が三万以上の町を中心として、以後少くも十年以内に市制施行の希望が遠くなるため、廣区域、大人口の町が出現するに便が生じ、此の際には人口とすことと可能限り市制を施行せしめる。また町村合併による市制施行に重点をおく以上の観点、緩和される重要な点は、(一)に基き、制限を、(二)に、第一項の二、三は人口一萬四千以上の町を中心として、人口三万以上となれば市制施行を認可する。但しこの場合の人口はあく迄も國勢調査による人口とすことと

臨時町議會召集か

小名浜町先ず合同委開く

この説明によつて小名浜町は現在人口三萬を突破し、現況のままでは自治法改正に伴い、少くも市制問題については今後十年の待ち呆けを余儀なくされる破目となるため、十四日午前十時から、公民館日本間に工場誘致市民準備合同委員会を召集、水野町長、長瀬助

市制施行町村の人口

政府の促進強化方針を反映した全國地方廳會議に基き、強力な推進方策下、近接町村合併により市制を確立の對象となつた。▽内郷町(三七〇八三)

愈よ石城舌戦へ知事

三候補きよう小名立会

縣知事立候補は八日締切られて無所属河戸嘉蔵、自由黨公認大竹作、右社会黨統一候補、無所属安田覺治、三氏の三巴に争われ、八日田島町を振出しの立会演説会は愈々十五日舌戦の駒を石城に進め、午後一時から湯本町公民館を皮切りに十六日の同日郡下一円にその政見と抱負を披瀝して十七日富岡町と相双地区に轉戦する事になった。郡下各會場は程は次の通り

▽湯本町(二八、三六四)
▽警備村(二一、三九)
▽小名浜町(二八、九五六)
▽八、泉町、六、九五五
▽江名町(四、八四八)
計四〇、七五一

▽勿来町(一六、八四〇)
▽川部村(六、四一三)
▽錦町(九、五八四)
計三二、八三七

講演と映画鑑賞會
社民ク講座
小名浜社民ク(会長金田亮氏)第三回社民ク講座

錦公營住宅施行者決る
二回に亘つて行われた錦町(町長高木武一郎氏)公營住宅の入札は當局と業者との間の折合が付き結局流会に終つていた。十日午後一時より第三回目の入札を町役場會議室に於いて開いた結果、次の諸氏が各々落札した。錦町中田遷堂地内の第一種公營住宅十一坪(建築費一十五万は同町中田の金成土建株式會社(社長金成泰三氏)に四百四十五万五千円で落札した。第二種公營住宅同町大倉綾の内内の建坪九坪五戸は同町中田の勝呂組に百二十一万五千円で落札。また郡南には最初建設するといふ鉄筋コンクリート特耐アパート(棟八世帯)は錦町中田物觀

天氣豫報 15
(本日)南の風、始め晴れ、次第に薄雲が擴がり、海上、大體穏やかです。が日中多少風波が吹出し、うす。

魚菜市況 14
(小名浜中央青果市場) 卵一(一、二五)九九大根七(一、六五)二(一、四七)白菜二(一、四五)へらな三(一、二大根一(一、一五)ほうれん草四(一、八〇)牛蒡一(一、〇五)五馬鈴薯四(一、七五)里一(一、四〇)六〇切一(一、五〇)一八五人蔞四(一、六六)玉ねぎ六〇一七〇

祝 發 刊 滿 三 周 年 記 念 協 贊

小名浜生活協同組合 組合長 田 亮	小名浜郵便局 局長 佐藤 幸助	小名浜電報電話局 局長 新妻 新量	磐城通運株式会社 小名浜營業所長 野口源太郎	門井組	小名濱藝妓寮組合 組合長 吉田 與平	藤田組 藤田 喜次男	福島県水産試験場 場長 菅野 健一	日本冷蔵株式会社 小名 濱 工場	小名浜中央青果市場
----------------------	--------------------	----------------------	---------------------------	-----	-----------------------	---------------	----------------------	---------------------	-----------

鮫川堰改良区 理事長 古川 伝一	小名浜職場野球聯盟 会長 志賀 要平
---------------------	-----------------------

